



# 榎

札幌市立北園小学校  
学校だより  
令和4年4月6日(水)  
第1号

## どの子にとっても幸せな学校を目指して

校長 森田 智也

「本当にこの雪は解けるのだろうか。」とってしまうほどの大雪に見舞われた冬も去り、ほんの少し温かな風に春を感じるようになりました。新入学児童 50 名を迎え、全児童数 353 名で令和4年度をスタートいたします。

私は、今年度の校長を仰せつかりました森田智也と申します。中央区の円山小学校より参りました。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年度をスタートさせるにあたり、職員に次の言葉をもとに話をしました。

### 「子ども時代を幸せに過ごした子は、大人になっても幸せである。」

これは、私が学校に勤めて間もないころ、先輩教師から聞いた言葉です。私は、この言葉を機会あるたびごとに思い出し、自分の行動を振り返っておりました。

学校教育の目標は、子どもたちが、未来を力強く、あるいは健やかに生きるための力を育むことかと思えます。そのためには、子ども時代を幸せに生きた経験は、相手を受け入れる豊かな心や困っている人に寄り添い手を差し伸べる思いやりに成長し、ひいては自らの生きる力になるものだと考えます。

学校は、どの子にとっても素敵な場所で、絆を深める場所で、そこでの経験がその子その子の心に「力」となるような場であるようにしていかなければなりません。

また、私たちの暮らしはスマホや AI に代表されるように、便利さがどんどん増しております。これは時代の流れであり、否定はできないのですが、本物を見ずして一定の理解をすること、物事を経験して自分なりの感覚を知るのとでは大きな違いがあるように思います。「幸せ」についても同じことが言えると思います。本当に幸せな時間を経験すること、バーチャルな幸せとでは違いは明らかではないでしょうか。

子どもたちが幸せに過ごすことができる学校を目指して、今年度新たに加わった職員ともども、心をつなげて、より一層の教育活動を充実させていく所存です。これまで同様、本校の教育活動への御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます、新年度の御挨拶といたします。

